

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300011		
法人名	社会福祉法人 小松島敬和会		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	徳島県小松島市坂野町榎のべ35番地		
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年3月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する特別養護老人ホームやデイサービスセンター、居宅介護支援事業所等の担当者やケアマネジャーと連携し、情報を共有し、個々の介護度や認知度に適したサービスを提供する事ができる。又、イベントや行事にも積極的に参加させて頂き、利用者様が充実した苑生活ができる様に支援をしている。地域の方との交流や相談窓口になれる様に、月1回オレンジカフェひかりを開催している。入所者様が地域から孤立しない様に、面会や訪問は、柔軟に対応している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に田園風景が広がる、のどかな場所に位置している。敷地内には、同一法人が運営する複数の他サービス事業所が併設し、季節の行事や避難訓練などの際に、協力して取り組んでいる。事業所独自の理念として、“住みなれた地域の中で安心と尊厳をお守りします。”という理念を掲げ、事業所内に掲示することで、職員間での周知を図っている。定期的に、“オレンジカフェ ひかり”を開催し、地域の福祉拠点として、近隣住民との関係の構築や福祉課題の把握等に努めている。また、清潔保持や体調確認等の観点から、毎日の入浴支援にも積極的に取り組み、生活習慣の一部となるよう努めている。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外出等が制限される中においても、少人数で車がから降りずに季節の花を見に行くなど、利用者の生きがいにつながるよう工夫している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の送り時に職員全員で理念を復唱している。職員全員が理念に沿った支援ができる様に努力している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。研修会等の機会に、理念について話しあい、職員間での共有化を図っている。新規職員の採用時にも、理念について伝えている。玄関やスタッフルームにも掲示し、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や福祉祭に参加させて頂き、地域から孤立しない様に地元の活動や交流に積極的に取り組む様に努力している。	事業所では、同一法人が運営する他サービス事業所の利用者や近隣小学校等と、日常的に交流している。感染症(コロナ等)の終息後には、オレンジカフェを再開するなど、地域の福祉拠点として取り組むことを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一回オレンジカフェひかりを開催し、地域の方に認知症の人の理解や、暮らしぶりを知っていただける様に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の民生委員の方や相談員にも参加して頂き、情報交換や、意見を頂き、サービス向上に務めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、家族代表や民生委員、市の担当者、近隣の別法人が運営するグループホームの代表者などの出席を得ている。感染症の流行下では、書面を郵送し、電話等で意見を得ている。出された意見は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回、介護福祉課の担当者に入居状況を報告しに訪れ、現場の実情等を報告し、協力関係を築ける様に努めている。	管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問し、事業所の取組や利用者の状況を報告している。訪問時に、課題に対する助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月一回開催している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では、毎月、身体拘束廃止委員会を開催し、拘束の内容や弊害等について、職員間での理解を深めている。職員は、利用者の行動を制止せず、寄りそうことを大切に捉え、拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を月1回開催し、職員による虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や青年後見制度の研修や勉強会を行い、入所者やその家族が活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時に入所者の不安な事や疑問に思う事、家族の相談に応じ、理解や納得して頂く様に努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑生活の中で、入所者からの意見や要望を聞きだしている。家族の面会や訪問時に気軽に相談が出来たり、意見を言える雰囲気作りにも努めている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの意見や要望等を聞き取っている。家族等の意見は、来訪時や電話のやり取りなどにより把握している。出された意見等をもとに、事業所内で協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議やカンファレンスを行い、職員の意見や提案に耳を傾け、働く意欲向上や質の確保に努めている。	管理者は、月1回の職員会議や申し送りなどの機会に、職員が意見や提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。法人内の合同カンファレンス等の機会に、職員と代表者が話す機会もある。聞き取った意見や提案等は、職員間で検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や実績、勤務状況等を把握し、職員の処遇改善や向上心を持って働ける様に職場環境や、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修に参加したり、働きながら技術や知識を身につける事ができる様に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や勉強会に参加し、同業者と交流する機会を作り、情報交換やサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人と向き合いながら、本人の気持ちに耳を傾けながら、本人の気持ちを受け止める努力をしている。担当職員を設け、信頼関係が保てる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立って、困っている事、不安な事や要望に耳を傾け、信頼関係が保てる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族が必要としている支援を見極め、できる限りのサービスができる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入所者が暮らしを共にする事で、信頼関係が築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族との関係を大切にしながら、お互いの信頼関係が築ける様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容室に行ったり、お墓参りに出かけている。近所の方が面会や訪問に来て頂き、これまでの関係が途切れない様に支援している。	事業所では、地域の老人会や婦人会等の行事に参加したり、家族等の協力を得て墓参りや外泊に出かけたりするなど、馴染みの関係継続に向けて支援している。感染症の流行下においては、電話等により、関係性が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の関係を把握し、入所者が孤立しない様に関わり、支える様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの契約が終了した後も、必要に応じて、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者や家族の希望や意向に耳を傾け、職員は、入所者や家族の希望や意向に沿うように努めている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の希望や意向等の把握に努めている。一人ひとりの生活歴や趣味などを聞きとり、畑仕事や調理、裁縫など、心身状況にあわせて、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者や家族から馴染みのある暮らし方や生活環境を聞き取り、充実した苑生活が送れる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が情報交換し、心身の状態や現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	苑生活の中で、入所者がより良く暮らす為に、それぞれの意見やアイデアを反映し、家族や入所者の希望や要望に沿った介護計画を作成する様に努めている。	事業所では、利用者や家族等の希望を踏まえた介護計画書を作成している。定期的に、モニタリングや見直しを行い、医師や看護師等からの助言も得つつ、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士が情報を共有し、日々の様子や気づきを個別記録に記入し、実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者や家族の状況に合わせ、入所者のニーズに対して柔軟な支援やサービスができる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に往診して頂いている。入所者や家族が希望するかかりつけ医や専門医への受診を支援している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関と連携し、毎日の往診や緊急時の相談体制などを整備している。専門科を受診する際は、家族等の協力を得ることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には、情報や気づきを看護職や訪問看護師に相談し、入所者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者が入院した時に安心して治療ができる様に、医療機関と情報交換している。又早期に退院ができる様に医療機関との関係づくりを積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明会で入所者が重症化した時や終末期について事業所のできる事を十分に説明し、意向を確認しながら、家族や医療関係者と連携し、支援している。	事業所では、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。本人の心身状況の変化に応じて、家族等の希望を聞き取りつつ、関係機関等とチームで支援に取り組んでいる。また、看取り支援についても、希望に応じて実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に、慌てず適切な行動が取れる様に、研修や勉強会を行い、実践力を身に付けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回事業所内で避難訓練を行っている。同一法人との合同避難訓練にも参加している。避難訓練を行う際に家族や地域の方にも連絡し参加して頂ける様に努めている。	事業所では、年2回、利用者や家族等の参加を得て、避難訓練を実施している。日中・夜間における火災や地震、水害等を想定し、避難経路の確認等を行っている。また、福祉避難所の指定を受けて、備蓄を多く準備するなど、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や勉強会を行い、職員全員が、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない様な言葉かけを心がけている。	職員は、法人で開催される合同研修に参加して、個人情報保護やプライバシー等に関して理解を深めている。日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳や自尊心に配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者本人が、苑生活の中で、思いや希望を表したり自己決定ができる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑生活の中で、入所者のペースに合わせて生活ができる様に、思いや希望を聞き取り柔軟に対応が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を家族に持ってきて頂いたり、馴染みの化粧品を購入して頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑生活の中で、好みのおかずや食べたい物を聞き取っている。入所者の状態に合わせて、台ふきや野菜の皮むき等を手伝って頂いている。	食事は、三食、事業所で作ったものを提供している。行事食や誕生日食のほか、“洋風ランチの日”など、日ごとに名前をつけることにより、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。利用者の心身状況にあわせた食事形態にするなど、食べやすいよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、入所者の健康状態を把握している。食事量が減っている入所者には、栄養補助食品で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には、口腔ケアをしている。口腔ケアが十分にできない入所者は、水分を多く飲用して頂き、口腔内に残存物がない様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導やトイレ介助を行っている。日中は、ほとんどの入所者をトイレで排泄する様に支援している。	事業所では、チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握した情報にもとづいて誘導を行い、排泄の自立に向けて支援している。食事内容の見直しや乳酸菌飲料の活用など、おむつ等の利用を減らし、できる限りトイレで排泄することができるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、一人ひとりの排便のリズムを把握している。毎日牛乳を飲用して頂いたり、乳製品をおやつに使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入所者の清潔保持の為に、出来るだけ毎日入浴できるように努力している。入浴を嫌がる入所者には無理強いないで清拭などで対応している。	事業所では、毎日、入浴することができるよう支援に取り組んでいる。重度化した利用者でも湯船につかることができるよう、二人介助を行うなど、創意工夫に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	苑生活の中で、体調や生活習慣を把握し、居室でお昼寝をしたり、テレビを見たり自由に過ごして頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明表を活用し、薬の目的や副作用等を把握している。薬の管理は職員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味等を把握し、入所者一人ひとりがやりがいをもちながら苑生活が過ごせる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て、自宅への外出やお墓参りに出かけたりしている。	事業所では、家族等の協力を得て、外出や墓参りなど、利用者一人ひとりの希望する外出支援に努めている。感染症の流行にともない、敷地内を散歩したり、少人数でドライブに出かけたりして、外気や季節感を感じることができるよう工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、入所者本人の責任のもと、所持し、自由に使える様になっている。自分で管理できない入所者には、家族にお願いし購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家屋や知人からの電話のやり取りができる様に柔軟に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者が落ち着いて苑生活ができる様に座席等を決めている。入所者と一緒に季節に応じた壁面を作成し、少しでも季節感が味わえる様に努めている。	共用空間には大きな窓があり、日の光が差し込む温かい空間となっている。壁面には、季節にあわせた作品を飾ることで、四季を感じることができるよう工夫している。利用者一人ひとりが好きな場所でくつろぐことができるよう、畳やソファなどを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入所者同士がテーブルを囲んだり、家族や知人の面会があった時は、居室や和室で過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使っていたタンスや仏壇、家族の写真を飾ったりして、入所者様一人ひとりが居心地よく過ごせる様に工夫している。	居室には、利用者の使い慣れた家具や机、テレビ、仏壇などを持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりが居心地よく過ごすことができるよう、配置等も工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで対応している。トイレには、大きく張り紙をしている。居室が分からない入所者には、家族の了解を得てネーム等の張り紙をして理解できる様にしている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の送り時に職員全員で理念を復唱している。職員全員が理念に沿った支援ができる様に努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や福祉祭に参加させて頂き、地域から孤立しない様に地元の活動や交流に積極的に取り組む様に努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一回オレンジカフェひかりを開催し、地域の方に認知症の人の理解や、暮らしぶりを知っていただける様に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の民生委員の方や相談員にも参加して頂き、情報交換や、意見を頂き、サービス向上に務めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回、介護福祉課の担当者に入居状況を報告しに訪れ、現場の実情等を報告し、協力関係を築ける様に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月一回開催している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を月1回開催し、職員による虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や青年後見制度の研修や勉強会を行い、入所者やその家族が活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時に入所者の不安な事や疑問に思う事、家族の相談に応じ、理解や納得して頂く様に努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑生活の中で、入所者からの意見や要望を聞きだしている。家族の面会や訪問時に気軽に相談が出来たり、意見を言える雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議やカンファレンスを行い、職員の意見や提案に耳を傾け、働く意欲向上や質の確保に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や実績、勤務状況等を把握し、職員の処遇改善や向上心を持って働ける様に職場環境や、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修に参加したり、働きながら技術や知識を身につける事ができる様に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や勉強会に参加し、同業者と交流する機会を作り、情報交換やサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人と向き合いながら、本人の気持ちに耳を傾けながら、本人の気持ちを受け止める努力をしている。担当職員を設け、信頼関係が保てる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立って、困っている事、不安な事や要望に耳を傾け、信頼関係が保てる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族が必要としている支援を見極め、できる限りのサービスができる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入所者が暮らしを共にする事で、信頼関係が築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族との関係を大切にしながら、お互いの信頼関係が築ける様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容室に行ったり、お墓参りに出かけている。近所の方が面会や訪問に来て頂き、これまでの関係が途切れない様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の関係を把握し、入所者が孤立しない様に関わり、支える様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの契約が終了した後も、必要に応じて、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者や家族の希望や意向に耳を傾け、職員は、入所者や家族の希望や意向に沿うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者や家族から馴染みのある暮らし方や生活環境を聞き取り、充実した苑生活が送れる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が情報交換し、心身の状態や現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	苑生活の中で、入所者がより良く暮らす為に、それぞれの意見やアイデアを反映し、家族や入所者の希望や要望に沿った介護計画を作成する様に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士が情報を共有し、日々の様子や気づきを個別記録に記入し、実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者や家族の状況に合わせ、入所者のニーズに対して柔軟な支援やサービスができる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に往診して頂いている。入所者や家族が希望するかかりつけ医や専門医への受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には、情報や気づきを看護職や訪問看護師に相談し、入所者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者が入院した時に安心して治療ができる様に、医療機関と情報交換している。又早期に退院ができる様に医療機関との関係づくりを積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明会で入所者が重症化した時や終末期について事業所でする事を十分に説明し、意向を確認しながら、家族や医療関係者と連携し、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に、慌てず適切な行動が取れる様に、研修や勉強会を行い、実践力を身に付けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回事業所内で避難訓練を行っている。同一法人との合同避難訓練にも参加している。避難訓練を行う際に家族や地域の方にも連絡し参加して頂ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や勉強会を行い、職員全員が、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない様な言葉かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者本人が、苑生活の中で、思いや希望を表したり自己決定ができる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑生活の中で、入所者のペースに合わせて生活ができる様に、思いや希望を聞き取り柔軟に対応が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を家族に持ってきて頂いたり、馴染みの化粧品を購入して頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑生活の中で、好みのおかずや食べたい物を聞き取っている。入所者の状態に合わせて、台ふきや野菜の皮むき等を手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、入所者の健康状態を把握している。食事量が減っている入所者には、栄養補助食品で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には、口腔ケアをしている。口腔ケアが十分にできない入所者は、水分を多く飲用して頂き、口腔内に残存物がない様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導やトイレ介助を行っている。日中は、ほとんどの入所者をトイレで排泄する様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、一人ひとりの排便のリズムを把握している。毎日牛乳を飲用して頂いたり、乳製品をおやつに使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所者の清潔保持の為に、出来るだけ毎日入浴できる様に努力している。入浴を嫌がる入所者には無理強いしないで清拭などで対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	苑生活の中で、体調や生活習慣を把握し、居室でお昼寝をしたり、テレビを見たり自由に過ごして頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明表を活用し、薬の目的や副作用等を把握している。薬の管理は職員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味等を把握し、入所者一人ひとりがやりがいを持って苑生活が過ごせる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て、自宅への外出やお墓参りに出かけたりしている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、入所者本人の責任のもと、所持し、自由に使える様にしている。自分で管理できない入所者には、家族にお願いし購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家屋や知人からの電話のやり取りができる様に柔軟に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者が落ち着いて苑生活ができる様に座席等を決めている。入所者と一緒に季節に応じた壁面を作成し、少しでも季節感が味わえる様に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入所者同士がテーブルを囲んだり、家族や知人の面会があった時は、居室や和室で過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使っていたタンスや仏壇、家族の写真を飾ったりして、入所者様一人ひとりが居心地よく過ごせる様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで対応している。トイレには、大きく張り紙をしている。居室が分からない入所者には、家族の了解を得てネーム等の張り紙をして理解できる様にしている。		